

切磋琢磨Ⅱ

校長室だより

R1.6.5 第10号

「いのち」の大切さについて考えよう ～豊橋・学校いのちの日～

豊橋・学校いのちの日（6/18）

6月18日は、豊橋学校いのちの日です。少し早いですが、今朝、放送朝会にて「いのち」について、校長講話を行いました。お子さんに話した内容を掲載します。（一部省略）

今から9年前、当時中学校一年生だった女の子が、自然体験学習でボートが転覆して、大切な「いのち」を落としました。それから豊橋では、この6月18日を『豊橋・学校いのちの日』と決めて、命の大切さについてじっくり考える日、学校の安全についてしっかり考える日としています。

さて、皆さんは自分の「いのち」に値段をつけるとうるといくらになると思うのでしょうか。命はだいたい、5000円だそうです。これは、水が30リットルで1000円というように、体の中にあるものをそれぞれ売っている値段にして足した金額です。でも、皆さんだれもが、5000円などという値段ではないと思っているはずです。そんな安くないとか、いのちに値段はつけられないと思っているにちがいありません。それはどうしてでしょうか。

ここで、相田みつをさんの「いのちのバトン」という詩を紹介します。

自分の番 いのちのバトン

父と母で二人 父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で千二十四人 二十代前では…？
なんと百万人を超すんです
過去無量の いのちのバトンを受けついで
いまここに 自分の番を生きている
それがあなたのいのちです
それが わたしのいのちです

相田みつを

みなさんは、みなさんのお父さんお母さん、おじいさんおばあさんなど、たくさんの人からいのちのバトンを受け継いできているのです。だから、このいのちのバトンを大切に次の人に引き継いでいなくてはなりません。

だから、「いのち」は値段がつけられない、とても尊いものなのです。この受け継いできたいのちを輝かせるのは、みなさん自身です。そして、自分を大切にすることと同時に、友だちにもそれぞれ大切ないのちがあるということに気づいてほしいと思います。いじめや暴力などで友だちを傷つけるということは、かけがえのないいのちを粗末にし、人の大切ないのちを脅かしているのです。

だれにでもある大切ないのち。もう一度その大切さに気付いて、これからの生活を送り「いのちのバトン」を引き継いでいってください。

愛されることで自己肯定感が高まる

どれだけご家族の方たちから愛されているのかをお話していただける機会があると思います。子どもたちは、「愛されていること」で、自分を大切にし、自分に自信をもつようになります。そして、自己肯定感を高めていきます。

昨今、いろいろな事件の報道が毎日のように流れます。「どうせ自分なんか…」という自暴自棄の気持ちが大事件を引き起こしてしまったという報道もありました。お子さんの身近にいるご家庭の皆さんや我々教職員が、その子のよさを知り、その子の輝きが増すように、導いていく必要があると思います。お子さんが自分の存在の尊さに気づき、自分を大切にできるよう、ご家庭でも、いのちの大切さやお子さんを愛おしく思う気持ちを率直に伝えていただければ幸いです。

(^♪) みんな同じ いきているから

一人に一つずつ 大切ないのち(^♪)

まあるいいのち(歌手イルカ)より